

灯台

環境危機の根本原因から目をそらすな

いま、資本主義のグローバル経済活動の暴走によって、人類の生活も、自然環境も、とり返しのつかないほどに破壊されています。人類はこれからもこの地球を、こんな資本主義に委ねていいのでしょうか？

最近では、「気候変動」について、世界でその対策が語られています。世界の多くの人々が、この気候変動について耳を傾けたのは、1990年代後半以降に生れた世代ⅡZ世代と呼ばれる若者たちの一人であった、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが、国連の会議で、各国の気候変動対策を「無限の経済成長というおとぎ話」と言って、痛烈に批判し、資本主義に代る「新しいシステム」を求めた演説です。

このような、環境意識が高く、資本主義に批判的な若者たちが、「ジエネレーション・レフト（左翼世代）」として社会主義に共鳴するようになっていくようです。

今ひとつ気候変動について、資本の側からの巧妙な目つぶし攻撃を紹介します。それは、SDGs（持続可能な開発目標）と呼ばれて国連が掲げ、各国政府、大企業も推進するものです。顕在化してきた危機の根本原因は、資本主義そのものが生み出したのであり、これは明らかに根本原因の目隠しです。

危機を生み出す犯人は、資本主義そのものであるから、問題解決は、資本主義から脱却して新しい社会をめざすことです。

労働大学企画編集委員 柳本 勝彦